

平成21年度 NPOと行政の協働会議 第2回全体会

日 時：平成21年9月4日（金）10:00~12:00

場 所：ひょうごボランティアプラザ セミナー室

出席者：【NPO部会】前川、能島、河口、柳田、中村、柏木

【行政】横山、佐伯、藤原

事務局：小森、高橋、是川、秋澤、松井、阪上

（ 敬省略 ）

協議題

今からNPOと行政の協働会議第2回全体会を開催します。次第に従って協議題から入らせていただき、まずは「各ワーキンググループからの報告及び協議」として、「つながりワーキング」からお願いします。

（昨年全体会としても取り組んだ）芦屋モデルについての経過を報告すると、7月16日に第1回地域交流会を開催した。自治会をはじめ市民活動団体、ボランティア団体など市内から16の団体が参加した。初めてセクターを越えて集まったということで大きな意味があった。参加団体は何らかのネットワークを持っているので、これからはネットワークのネットワークという位置づけで地域の課題を話し合っていく。また、地域の人材もピックアップしていきたい。今年の「あしや市民フェスタ」では地域の人材によるリレートークなどを検討している。あと、市民活動とビジネスの両立を考えている企業から話がでて面白いのではないかと考えている。

このように、昨年協働会議が働きかけたことがようやく地域の中で動き出そうとしている。

震災15周年の事業も「つながりワーキング」で協議して、震災の時から生まれた地域のつながりが何を生んだのかというトークなどのアイデアを考えている。

「委託・指定管理ワーキング」は方向性の確認をしたが、まだ結論は出ていない。昨年度に作成した「Q&A集」を活用していければと考えている。指定管理を受けるところが増えてきている。各団体が事例や資料を持ち寄って考察していき、「Q&A集」の拡充を図っていきたい。

「Q&A集」は県会においても見てもらっている。また、県職員の研修にも使っていきたいと考えている。

「中間支援・マネジメントワーキング」は7月28日に第1回目を開催した。今回、初めて「中間支援」をテーマにやっていくこともあり、また協働会議であるからには行政と一緒に取り組めるものでなければならない。意見では中間支援がどのような状態であるのが良いのか議論したが、いろんなケースがありすぐに結論が出るものではない。中間支援にもいろいろなケースがあるのでそれを整理していきたい。国内外の成功事例を集め、どういう形がいいのかを検討し、兵庫県の中でのよりよい形のモデルづくりを検討していきたいと考えている。

各ワーキングからひとつおりの報告をいただいたので、ここからフリートークと

して自由に意見を出し合って行きたい。

各報告を聞いて感じたことを述べさせていただくと、「つながりワーキング」は芦屋モデルのようにNPOだけでなくネットワークづくりに興味はある。指定管理の申請で自治会と協働してきたが、共通する部分が多いということもわかってきた。「委託・指定管理ワーキング」は今回の選挙の政権交代で、最低賃金がアップされる動きが出てくる可能性があるが、そうになると委託や指定管理料で行政側がNPO職員の賃金のことを考えてくれるのか気になる。「中間支援・マネジメントワーキング」の報告を聞いて、中間支援で独立採算がとれるのかどうか。地域通貨のしくみなど具体的に検討していい時期に来ているのではないかと思っている。

事業が増えて、中間支援なのかイベント屋なのかわからないくらい先月は忙しかった。このように仕事が増えると、スタッフの超勤手当の人件費がかさみ、利益が減るというジレンマがある。このように委託を受けるほど組織が疲弊するという現状がある。しかし、指定管理を受けなければ委託が少なくなる。収支バランスがとりにくい。中間支援は本当に収支バランスが難しく、まだまだ課題は多い。

この会議での行政メンバーは県だが、話の内容は市町のものが多い。「つながりワーキング」では地域での取り組みの報告があったが、県レベルの話が進めば、あとは市町に託すことが重要。神戸市においても「円卓会議」を行っているが、これからは各区に託していくこととして、できそうな区から取り組んでもらうようにしていくことになった。この会議でもそういう流れができるのではないか。

委託は確かに収益率が悪いが運営基盤でもある。指定管理を受けると施設を使う市民の立場に立つことができる。市民の声を聞いて利用率をアップさせることもできる。また、NPOが参入することによって地元で新しい雇用形態を生み出すこともできるので、よい事例をたくさん出していただきたい。

中間支援はNPO法ができて10年経った程の時点ではまだ成熟していない。中間支援の役割はNPOをサポートすることと、行政等他のセクターとのコーディネートだと思う。まず中間支援がどのような仕事をしているのかという実態を調べて明らかにしてから、あり方論とか役割分担論に行ったほうがよいのではないか。類型化は難しいと思う。

県内のNPO法人の約4割、つまり500近い団体が中間支援を行うに つけて いる。

まず、「委託・指定管理ワーキング」については、当法人も4月から指定管理を受けて、委託では出来なかったことができると思っていたが、実際に受けるといろいろと疑問が出てきた。行政担当者の認識等によって指定管理を受けた側の裁量権が制限されてしまう。指定管理者制度と委託事業の違いについて、部会で議論されることを期待している。自分のところが受けている指定管理の施設は県内に3カ所あるが、他は営利企業や財団法人が受けている。NPO法人は自分の組織のミッションに合った運営を行うが、企業人の立場であればやはり営利を目的とするだろう。指定管理者制度のあり方そのものにも色々議論できればよいと思う。

「中間支援・マネジメントワーキング」については、先日、大阪と阪神間の中間支援のNPO法人の勉強会の集まりに参加したが、都市部の中間支援のあり方と地方の

中間支援のあり方それぞれに良さがあると感じた。そのあたりの実態を明らかにする案には非常に興味深い。

確かに指定管理制度はNPO本来の活動が制限されるのではという懸念はある。また、企業とNPOでは温度差があると思う。この会議がそういった情報交換の場になればと考える。

台風9号では皆さんをはじめ多くのボランティアの方たちにお世話になった。この場でお礼を申し上げたい。被災地は遠方のボランティアの受付は一旦終了した。これからはコミュニティの助け合いが重要になってくる。

あと、最近まで助成団体の現地視察を行ってきた。もっとアイデアや人材が集められそうなNPOも少なくない。

自治会、婦人会などコミュニティの力はすごいものがあることを、先日の水害の現地へ行って学んだ。コミュニティをなくしてはいけない。一方で自治会長も被災しているので、NPOの力も必要である。

その他

「つながりワーキング」のテーマに入るかもしれないが、「県民交流広場」のエントリーが終了する。また、助成が切れるところも出始めてきている。この事業はいつまで続くのか。

「県民交流広場」のねらいは地域の活性化でそのための起爆剤。事業は終了しても、主旨は未来永劫のものである。

確かに主旨はそうであるが、助成金が切れた後の相談窓口になってほしいと言われたこともある。

「県民交流広場」をテーマとして議論してみてもどうか。「つながりワーキング」ではいくつかの拠点があるという強みがあるし、NPOのアイデアをこの会議で出して活かしていければと思う。

「県民交流広場」は今後、NPOのノウハウを活かすことも考えられる。広場の制度をどのように活かしていくか、NPOがどのようにサポートしていくかなど。

次回開催日

日時：平成21年11月20日(金) 10:00~12:00

場所：ひょうごボランタリープラザ セミナー室